

皆様、こんにちは。

カトリック府中教会、アンドレアです。

イエスは、話をする際には簡潔なことばや日常生活からとった例をつねに用いました。種をまく人はイエスです。イエスは支配することによってではなく、ご自身を差し出すことによって私たちを引き寄せます。イエスは種をまいています。その種はどうすれば実を結ぶのでしょうか。種を受け入れればいいのです。

このたとえ話は、二千年前にイエスの話を聞いた人々だけでなく、現代に生きる私たち一人ひとりにも向けられています。主がご自分のことばと愛という種を常にまいておられる土地は私たちであることを、この話は思い起こさせてくれます。私たちはどんな気持ちでその種を受け入れるのでしょうか。そして、わたしたちは自分自身に問いかけます。自分はどんな心をしているのだろうか。どの土地に似ているのだろうか。道端、石だらけの土地、それともいばらの間の土地だろうか。とげも石もなく、しっかりと開拓され耕された良い土地になり、自分だけでなく兄弟姉妹にも良い結果をもたらすことができるかどうかは、私たち自身にかかっています。

さらに、私たちは、種をまく人でもあると思います。このことを忘れないようにしましょう。神は良い種をまかれます。わたしたちは、どんな種が自分の心と口から出ているのか自らに問わなければなりません。私たちのことばは、とても良いこともできれば、非常に悪いこともできます。いやすこともできれば、傷つけることもできます。励ますこともできれば、失望させることもできます。大切なことは、何が入るかではなく、何が口や心から出るかです。

皆様、本日イエスは、自分自身の内面に目を向け、よい土地を与えられたことに感謝し、まだ悪い状態にある土地を耕すよう私たちを招いています。私たちの心が、信仰をもってみことばの種を受け入れられるよう開かれているかどうか自問しましょう。そうすれば、種をまく方であるイエスが、みことばをふさぐ石ととげを取り除いて、私たちの心を清めるために、喜んでさらに働いてくださいます。

